

ふみびと

第229号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

手紙の交流 日々を豊かに

父の後ろを歩く

母の日はいつも花を贈っ

ていて、そこに何の抵抗もないのですが、父の日に改まって何かするとなるとなぜか照れ臭い感じがして、躊躇っているうちに過ぎてしまったことが何度かあります。いつも強かった父。子どもの頃は厳しくて怖かったこともあり、大人になってからも少しその印象が残っているからなのかもしれませぬ。弱音を吐くこともなく、

仕事の愚痴をこぼすこと

もなく、当然涙を見せるようなことも普段は全くありませんでした。そんな父が私たち家族の前でこみ上げるものを堪えられなかったのがたった二度だけ。一度は祖母、つまり父にとつての母が亡くなったとき。もう一度は私の結婚式。子どもの前で弱いところを見せなかった父が、堪えられないほど悲しかった祖母との別れ。そして



た祖母との別れ。そして堪えられないほど感動してくれた私の結婚式。

あまり多く会話を交わす方ではなかった私たちが親子でしたが、実はどれほど思っていてくれたか、その時初めて感じる事ができたような気がしました。家族を持つようになって初めて思うこと。強くありたいと思うことだったり、家族を守ら

なければと思うことから、きつと家族に弱さを見せまいと一人必死で戦ってきたのだと、父の後ろを歩くようになって少しわかります。

子どもたちの手が離れて、「父」から一人の人として再び自分のために歩くようになってからの今の時間。ただ肩から降りた重荷の分だけ楽に自由な時間を過ごしてもらえたらと思います。

父が自分のためになつた一度だけ見せた涙。強くなくていい、人目を憚らず感涙にむせぶ父を、幼かったあの頃とは違う尊敬の気持ちで今は追いかけています。

と豊かにするパワーがある。

メールや電話とは異なる、ゆつくりとした時の流れの中で楽しむ文通は、いつもの自分の生活に新たな気づきをもたらす。

心動く体験

もちろんメールや電話の恩恵の中で生きる私たちはメールがあるから仕事もはかどり、電話があるから遠方の人とも迅速な連絡が可能になっている。

流れに居心地の良さを思い出す。どこかに置き忘れて来てしまった感覚。

それは、返事がなかなか来ないドキドキや不安であったり、返事が届いたときの驚きや嬉しさであったり、手紙を書いている時間の幸福感であったり…。デジタルではないアナログな分、文通には心動く体験が数多くある。

手紙には、日々の生活をちょっと豊かにするパワーがある。

アイデア募集中
村人検察やふみ友リスト、メモ機能など皆様からのご意見などを参考に皆さんが楽しく文通ができるような仕組みを行って参りましたが、さらに皆様からのアイデアを募集いたします。「こんな機能があるといいなあ」をぜひ教えていただけると嬉しいです。

風にゆられて誰かに届け!
風船便

いつでも参加できますが、風船便の受取は新規の方へ優先されます。送付方法は簡単で、下の風船便切手を切り取って手紙に貼り宛名に「風船便を受け取った方へ」と書いて、差出人名を書くだけです。あ事務返信筒に封下流しは、宛封下流しで済み局用封下流しで済みです。

お知らせ
6月の発送日
次回発送は、通常通り15日です。
送りたいお手紙がある場合には、発送日の2日前(13日)までに事務局に到着することを確認の上、ポストに投函してください。